

『内視鏡外科手術における臨床工学技士によるマネジメント』

聖隷浜松病院 臨床工学室

鈴木 克尚

【はじめに】当院では 2002 年より内視鏡機器の滅菌前点検を開始した。2006 年より各診療科で管理していた医療機器のマネジメントを開始して、内視鏡機器の統一化と部屋割りの際に内視鏡機器の配置を行った。2007 年より清潔補助業務を行うことで、医療機器の多い内視鏡外科手術でも進出した。さらに 2013 年よりラパロ鉗子の管理、2015 年よりスコピストを開始した。CE がより術野に近づくことで、点検の改善や運用の見直しが行われてきた。

【方法】CE のマネジメント活動について評価した。

【結果】2016 度は内視鏡手術 2,649 件が実施され、ほぼ全例に立会い、清潔補助（器械だし 461 件、婦人科を中心にスコピストは 255 件であった。スコピストではカメラ類の破損はなく、閉創時に片付けを支援した。滅菌前点検では 4,801 件で点検時に 10 件、術中では 2 件、ラパロ鉗子は 2015 年より性能点検を追加して、1,050 件中 64 件、術中指摘が 2 件であった。ハンドルの回転不良ではハンドル部の回転動作点検（注油含む）を追加した。術中 2 件のハサミ鉗子不良では再評価をしている。

【考察】未だに術野での不良が発見されることもあり、立会いやスコピストを通して点検方法の見直しや改善を行う必要がある。今後も情報共有を行い、医師が術中操作に専念できる環境を整備して行く必要がある。